

## 現場風景・あかり光景 78

渋谷駅周辺再開発事業の最後発プロジェクト・桜丘口再開発の現況  
～完成後は渋谷・代官山・恵比寿が一体化する！？～

埼京線のホーム沿いに広がる桜丘地区再開発現場。埼京線も左側に移動する

写真はJR渋谷駅・桜が丘口で進む再開発事業（渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業）の現況だ（12月1日撮影）。小紙今週号の《まんすりーりポート》欄では、高層ビルの竣工・開業が次々と続く渋谷駅周辺の再開発事業の現況を特集しているが、桜丘口の再開発は渋谷駅周辺の再開発事業では最も後発だった。

すぐ隣では渋谷ストリーム（2018年9月13日開業）、渋谷スクランブルスクエア（2019年11月1日開業）、渋谷フクラス（2019年12月5日開業）などが次々と誕生している。それだけでも渋谷駅周辺は「ガラリと変わった印象」だが、この桜丘地区の再開発が完成したら、渋谷駅周辺は「まったく違った街に生まれ変わった印象」になるだろう。

桜丘口の工事の状況は現在、ビルディング建設の基礎工事開始に向けた整地作業が佳境を迎えている段階だ。敷地の延べ面積は約25万5千㎡。この地区にはかつて大小数十棟の雑居ビルが立地し

ていたが、そこにA・B・Cの3街区に1棟ずつのビルディングが新たに建設される。A街区は地上39階、地下4階の多目的オフィスビル。B街区は地上29階、地下2階のオフィス・住宅ビル。C街区は地上4階建ての教会。A街区は設計施工ともに鹿島建設。B街区およびC街区は設計施工ともに戸田建設が担当する。

この桜丘口地区の再開発が注目されるのは、他の再開発プロジェクトが展開されている渋谷駅西口・東口の周辺とは違い、従来、盛り場・渋谷のなかでは開発が遅れている地区だったことだ。したがってこの地区にA・B・Cの3街区が完成すると、盛り場としての渋谷のエリアがかなり拡大され、桜が丘地区の背後に広がる代官山や恵比寿までが面的に繋がる可能性が高いのだ。

桜丘地区の再開発が終了するのは2023年11月の予定。10年に1度の再開発とされる《ニュー渋谷》の全貌は、そのときに明らかになるだろう。（砂耳）